

# 事業評価調査書

様式 1

(担当課：教育庁生涯学習課)

事業名	岡山県立図書館建設事業		
長期ビジョン項目	V - 2 生涯学習社会を拓く ・多様な学習社会の提供	施設建設に係る上位計画	_____

## 1 事業実施の必要性

### 政策課題等

政策課題と施設設置目的：

#### 政策課題

##### ・ 県立図書館の必要性

都道府県が設置する図書館は、県民の身近な学習活動や読書活動を支援するとともに、高度な調査研究にも応えられる機能を持つ他、県内市町村立図書館の活動を支援する役割を負っている。

本県では、昭和37年に設置された岡山県総合文化センター図書館部門が県立図書館としての役割を果たしてきたが、設置後37年が経過し施設の老朽化が激しく、また狭隘で、生涯学習の中核施設として位置づけられた県立図書館としての機能の発揮に限界が来ている。

具体的には、年々増加する蔵書の収蔵能力が限界を越えていること、電子媒体資料や新しいメディアの活用による高度情報化への対応、県民の様々な読書活動への支援、市町村立図書館への支援等が、現状のままでは困難になってきている。

これらの課題を解決するためには、広域ネットワークを整備しメディアセンター機能を持つ近代的な設備と豊富な図書資料を備えた県立図書館を整備することが緊急の課題となっている。

施設設置目的	目標達成測定指標	現状指標値	改善目標	改善率	目標達成時	全国平均 平成9年度
1 図書利用の活性化	個人貸出冊数	74,000 冊 (全国 41 位)	555,000 冊	7.5 倍	開館時	375,168 冊
	県民 1 人当りの貸出冊数	0.038 冊	0.28 冊		開館時	0.19 冊
	登録者比率 (県人口に対する登録者比率)	0.57 %	3.4 %	6 倍		2.4 %
	レファレンス件数 (利用者の質問に対する回答)	15,000 件 (全国 15 位)	45,000 件	3 倍	開館時	15,632 件
全国平均は、各県別の県民 1 人当たりの冊数及び比率を算出し、その全国平均に岡山県の人口を乗じた						
2 市町村支援の充実	市町立図書館等との相互貸借冊数	5,000 冊 (全国 26 位)	30,000 冊	6 倍	開館時	9,500 冊
	図書館未設置町村の配本利用者数 (未設置町村へ図書の一括貸出)	21,600 人	30,700 人	1.4 倍	開館時	
3 所蔵資料の充実	県立図書館の蔵書数	49 万冊 (全国 36 位)	70 万冊	1.4 倍	開館時	70 万冊
	県民 1 人当りの蔵書数	0.25 冊	0.36 冊		"	0.36 冊
	県域の資料保存センター	68 万冊 (新聞等図書換算)	230 万冊	3.4 倍	開館 20 年後	
4 図書館活動の普及・啓発	集会会議室年間利用件数	105 件	210 件	2 倍	開館時	
	対面朗読室年間利用件数	0 件	600 件	皆増	開館時	23 県設置

## 施設整備を行わない場合の問題点等

### 1 総合文化センターが老朽化し長期にわたって使用できない

総合文化センターは、建築後37年が経過し、施設設備の老朽化や敷地が狭隘で拡張スペースが確保できないこと、また利用部門が2階にあることや閲覧室が狭隘で車椅子などの通行に支障が生じるなど、障害者、高齢者の利用に適切でない。

### 2 総合文化センターが狭隘で図書資料の収蔵が限界を超えている

図書館部門の延べ床面積は1,682㎡しかなく、全国最低の面積である。

当初計画した図書収蔵数は18万冊であったが、現在では図書換算で約68万冊（図書約49万冊、新聞雑誌は図書に換算して約18万冊）を所蔵している。

これを収蔵するため、閲覧室を狭めて書架を置いたり、事務室の一部を書庫に転用している他、岡山市原尾島に分室（書庫面積617㎡）を設けて28万冊を収蔵しているが、平成16年には満杯になる。

### 3 豊かな図書館活動を支援する基盤が不足している

#### （1）蔵書数が不足している

県立図書館は、郷土資料、行政資料や図書資料等を保存する県内最大の保存センター機能を持ち、県民への貸出しや市町村立図書館への貸出しを通じて、県民の学習ニーズに応える必要がある。

しかし、現在の所蔵図書数は約49万冊（県民1人当たり0.26冊）で、これは各都道府県の1人当たりの蔵書数の平均を岡山県人口に置き換えて見る、同規模平均70万冊（県民1人当たり0.36冊）を、大きく下回り、全国順位36番目となっている。

#### （2）視聴覚資料やメディア等近代的な設備の整備が遅れている

今日、図書館ではビデオテープ、CD、LD、DVD等のAV資料を所蔵し、多くの利用者が活用している。

また、電子資料の普及とともにインターネット上の外部資料・情報を活用する利用者が増加している。他県の図書館では、これらに対応するため、施設、設備の改築、改善を行っているが、総合文化センターの現施設での整備は無理であり、このままでは、本県における図書館サービス機能の低下となる。

#### 代替方法の検討状況：

平成11年度の市町村立図書館設置状況は、10市22町に設置されているが、残り46町村には設置されていない。また、設置されていても資料費や専任職員の配置が十分でない市町村立図書館があり、利用者の要求に対し十分な図書館サービスができない。これを補完し、県民が等しく図書館サービスを受けられるようにすることは県立図書館の役割である。

この県立図書館の役割を果たすためには、県域の資料保存センターとして1カ所に豊富な資料を所蔵し図書館サービスを行うことが効率的であることから、図書館活動を展開する施設を整備することによって、そのニーズを満たすことが適当である。

## 県が事業主体となる理由等

(民間実施： 可能  困難  不可 )

図書館サービスは営利を目的とするものでなく、県民に対して学ぶ機会の提供や知る権利を保障する機関として、等しくサービスを提供するものであることから、民間が主体となって実施することは困難である。

(市町村実施： 可能  困難  不可 )

市町村立図書館は、直接サービスの提供が任務であり、地域住民の身近で最も利用しやすい図書館である。県立図書館の役割は、市町村立図書館の収集範囲を超える資料・情報を豊富に整備し、県内最大の資料保存センターとなることや情報発信の拠点施設のメディアセンターとして、市町村立図書館をバックアップする事である。このように県内広域にわたる図書館業務を特定の市町村に代行してもらうことは、不可能である。

## 管理運営主体

運営主体の名称： 岡山県

理由： 図書館は、学校と同じように人々の人格形成や学習機会の保障、文化の形成に関わる重要な教育機関である。

この図書館業務の民間委託については、図書の集配架等の一部業務は可能であるが、図書館の基幹的業務（管理運営計画の策定、資料提供業務、レファレンス、図書選定と受け入れ、学習環境整備等）については、施設設置者として県が責任をもって行う必要があり民間委託になじまないと考える。

（資料提供やレファレンスなどの業務についても当該館の図書に精通した者でなければ利用者の要求に十分応えることが出来ない。）

なお、図書館業務の委託については、昭和 61 年 3 月第 104 回国会衆議院予算委員会第 3 分科会議において議論されており、時の文部大臣により基幹的業務は委託できないとの答弁があった。

## 施設整備の緊急性等

施設整備の緊急性：

- (1) 岡山県総合文化センターの施設は、老朽化とともに図書館業務の展開を続けて行くには狭隘化となっている。このため、分室を設置して資料収蔵や図書館サービスを分散し対応しているが、分室の収蔵能力も平成 16 年度で限界になる。また、業務の分散は、利用者にも不便を与えている。
- (2) 総合文化センターの所蔵図書数が少なく（都道府県立図書館の蔵書に対する岡山県人口規模平均 70 万冊に対し 49 万冊）、市町村立図書館の支援体制が確立していないことや A V 資料、電子資料等の新しいメディアに十分対応できず、県民の要望に応えられない。

## 2 施設の規模、機能の必要性

### 施設設置場所選定理由

設置場所の選定理由：

岡山市立丸之内中学校跡地は、

岡山市の中心部に位置し、公共交通機関の便に恵まれ、かつ、分かりやすい場所であり、幼児から高齢者まで幅広い年代各層が利用しやすい。

後楽園、岡山城跡に近接しており、美術館等の文化施設も多く、落ち着いた環境にある。

人が集まりやすい市街地にありながら、図書館として利用しやすい低層建物（利用者スペースは2階まで）と書庫拡張スペースや駐車場の必要面積が確保できる。

### 利用者見込

施設利用者見込 延 763,000 人/年  
1日当たり 2,800 人

大規模開架を実施している 5 他府県の平成 9 年度、  
1日平均来館者数約 2,500 人（2,000 人～ 3,300 人）

#### 《施設利用者算出方法》

##### 直接利用者数

昭和 63 年から平成 7 年の間に開館した県立図書館（12 館）の開館前後の利用者増加率は約 6 倍となっており、本県においても同様になるものとして推計した。

岡山県の平成 10 年度入館者 延 101,784 人/年 × 6 倍 = 610,700 人/年

##### 児童図書部門新設による利用者の増見込

総来館者に対する児童図書部門利用者の全国平均は 20%。

610,700 人/年 × 10 / 8 = 763,300 人/年

- ・ 昭和 63 年以降に建設された 16 県の内人口 300 万人以下の図書館 12 館

比較県外図書館 宮崎県（S63）、広島県（S63）、山形県（H2）、鳥取県（H2）、徳島県（H2）、新潟県（H4）、和歌山県（H5）、秋田県（H5）、青森県（H6）、香川県（H6）、三重県（H6）、大分県（H7）

#### 《参考》

- (1) その他未設置町村等の配本所利用冊数

現在 43 配本所 配本所の年間利用冊数 延 95,000 冊（21,600 人）

今後 61 配本所 " 延 135,000 冊（30,700 人）

- (2) 「新県立図書館建設に関するアンケート調査」（平成 10 年 9 月）の結果、「県立図書館が出来たら利用したいか」の問に対する回答は、（20 歳以上の県民を無作為抽出により 2,000 人を対象、回収率 40.8%）

利用する 23% 分からない 54% 利用しない 22% であった。

施設機能別利用見込

機能名	規模・内容	施設利用料金	年間利用見込	他県等 全国平均
一般開架部門	一般参考、人文科学、社会科学、科学技術、岡山県関係資料、	無料	2,800人/日	2,500人/日 (20万冊以上の開架、5館の平均)
児童図書部門	児童図書部門(500㎡)	無料		
閲覧室	児童図書室、お話室、児童資料研究室 4,000㎡ 閲覧席 400席	無料		3,271㎡、311席(16館の平均) 4,676㎡(30万冊開架5館の平均)
閉架書庫	300,000冊開架 5,000㎡ (200万冊収蔵)	無料		195,000冊(16館の平均) 3,348㎡、115万冊(16館の平均)
AV資料コーナー	30ﾌﾟｰﾙ	無料	2,184時間(80%)	34県 100% 2~49ﾌﾟｰﾙ
ビデオシアター	100席	無料	147日(54%)	15県(118席)12~300席
対面朗読室	2室	無料	1,365時間(50%)	23県(2室)1~7室
会議・集会室	200人~30人用 計6室	無料	210日(77%)	38県(3室)1~10室
研究室	大・小 8室	無料	273日(100%)	23県(2室)1~10室
展示コーナー	県民参画(100㎡)	無料	175日(65%)	35県(107㎡)
駐車台数	200台程度	無料		197台(16館の平均) 岡山市立中央図書館 150台 倉敷市立図書館 172台(有料)

類似施設等との比較：

20万冊以上の大規模開架図書館の一日当たりの来館者数は、2,500人となる。

(岐阜県、愛知県、大阪府、香川県、大分県)

《参考》比較県外図書館

昭和63年以降に建設された16府県の閲覧室面積、書庫面積、座席数等の比較図書館

宮崎県(S63)、 広島県(S63)、 山形県(H2)、 鳥取県(H2)、 徳島県(H2)、 愛知県(H3)、 新潟県(H4)、 和歌山県(H5)、 秋田県(H5)、 青森県(H6)、 香川県(H6)、 三重県(H6)、 大分県(H7)、 岐阜県(H7)、 大阪府(H8) 宮城県(H10) 印は、単独館 印は、複合館 ・30万冊開架の図書館(5館) 徳島県、愛知県、大分県、大阪府、宮城県
---

### 3 財政負担額

#### 整備事業費

建物建設費	11,927,000 千円
うち 図書館躯体	7,776,000 千円
駐車場設費	1,798,000 千円
初度調費等	2,353,000 千円
土地購入、図書整備費等	5,066,000 千円
既支出額	0 円
( 総事業費に対する割合 : )	% )
運営主体への出資出損金	0 円
進入口路整備費	0 円

#### 管理運営経費

施設運営経費	264,800 千円	総合文化センター 平成 10 年度実績
管理運営経費	264,800 千円 (人件費を含まず)	45,918 千円
( 人件費 421,000 千円 )		( 365,200 千円 )
内訳 : 光熱水費	51,400 千円	16,721 千円
その他管理費	213,400 千円	29,197 千円
( 収入額 )	0 円 )	
事業費 ( 図書購入費 )	160,600 千円	48,152 千円
合 計	425,400 千円	94,070 千円
県補助等	0 円	

#### 整備事業費の財源

県費負担額	16,993,000 千円
( 起債見込額 : )	14,098,348 千円 )
( 一般財源 : )	2,894,652 千円 )
国庫支出金	0 円
その他 ( _____ )	

#### 単年度県費負担額

出資出損金 ( 平準化額 )	0 円
建設事業費 ( 平準化額 )	516,887 千円
運営費等支出額	425,400 千円
その他 ( 進入口路建設費等 )	0 円
計	942,287 千円

#### 事業収支見込み ( 施設開業後 年目 )

事業収入	支 出 額	A / B	類似施設等の状況	比 較 C / D
A	B	C	D	
0 円				

#### 管理運営費の類似施設との比較

施設管理運営費(注)	延床面積(または利用者数)	A / B	類似施設等の状況 (平成10年度実績)	比 較 C / D
A	B	C	D	
213,312,000 円	19,400 m <sup>2</sup>	10,995 円	10,330 円	106 %

(注) 上表は、施設管理運営費のうち、光熱水費、警備委託、清掃委託、E V 保守委託、空調委託、P C リー入、S E 委託費の7項目について、延べ床面積 10,000 m<sup>2</sup>以上の類似施設(8施設)平均と比較したものの。

## 4 利用者、地域などへの効果

### 施設利用者への効果

項 目	効 果 説 明
(1) 図書館サービス	<p>専門的かつ高度な調査研究や漠然としたテーマを研究する利用者には、各部門へ専門性を持った職員を配置するため、特定主題に関する調査研究（レファレンス）に対し質の良いサービスが受けられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で1都3県が実施している主題別部門制を採用する。</li> <li>6部門（一般参考、人文科学、社会科学、児童、科学技術、岡山県関係の資料部門）</li> <li>・岡山は、古くからの交通の要衝の地であることから交通文化に関する資料を重点収集するコーナーを設置する。</li> </ul> <p>県立図書館に備えてない資料・情報についても、365日24時間公開される検索システムを利用して所蔵館を調べたり、図書館相互貸借システムを活用して資料・情報を入手することができるなど、地域間格差の解消が図られる。</p> <p>県内の情報拠点として、従来の図書・雑誌等印刷媒体に加えてAV資料やCD-ROMさらにオンライン情報など電子資料の提供により、様々な情報を手にすることができる。</p>
(2) 児童図書部門の新設	<p>児童図書部門には、児童書の全点購入や児童書研究室などが設けられ、児童書に携わる市町村立図書館司書や児童書研究者等は、児童書選定や児童書研究の上で一層の効果が期待できる。</p>
(3) 障害者、高齢者	<p>対面朗読室を活用した朗読サービスや録音テープ、大型活字本を利用した読書が楽しめる。</p>
(4) メディア編集加工室の開放	<p>県立図書館の電子資料や利用者の研究資料を編集・加工し蓄積保管する機能が整備されるため、これらの情報コンテンツを編集加工し、学校及び個人・企業など幅広い活用ができる。</p>

### 地域への効果

項 目	効 果 説 明
周辺地域の活性化	<p>周辺地域は、博物館、美術館や岡山城、後楽園など名勝地があり、その一角に位置するため、新しい文化ゾーンの形成となる。</p> <p>また、新設により、多くの利用者があるものと考えられ、周辺地域の活性化が考えられる。</p>

### その他の効果

項 目	効 果 説 明
地域における図書館活動の活発化	<p>市町村立図書館への巡回協力車の運行や市町村図書館職員、司書の研修等の支援を通じて、市町村立図書館の活動を通して、青少年の読書活動も活発化が期待される。</p> <p>このことは、県民の学ぶ機会を拡大することにつながり、生涯学習社会の実現に大きく貢献する。</p>

### 施設設置によるマイナス効果

項 目	効 果 説 明
な し	

### その他（地元市町村の意見等）

項 目	効 果 説 明
<p>図書館関係団体との意見交換会での意見（岡山県図書館協会等）</p> <p>岡山市立中央図書館の意見</p> <p>県民へのアンケート調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成10年9月県民2000人を対象に実施</li> <li>回収率40.8%</li> <li>内容 県立図書館への意見</li> </ul> <p>岡山市（地元町内会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで10年待ち望んだ県立図書館を早く実現してほしい。</li> <li>豊富な図書・資料を整備し市町村立図書館をバックアップして欲しい。</li> </ul> <p>岡山市の年間購入冊数は、7万冊を越えているが、中央館の外に地区館、分館、公民館図書室などサービス拠点があるため、多数の複本の整備が必要となり年間発行点数の購入割合ではかなり低いものしか購入できていない状況である。</p> <p>新県立図書館にはぜひ新刊図書の70%程度の購入目標を実現していただき県域の市町村立図書館を支援していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場を十分確保した施設を整備して欲しい。</li> <li>子ども連れの母親が利用できるよう、施設設備に十分配慮してもらいたい。</li> <li>県北の居住者にも利用できるよう、岡山情報ハイウェイなどコンピュータネットワークを確立し、蔵書検索やレファレンスサービスが受けられるようにして欲しい。</li> </ul> <p>・地域の空洞化が進んでいることから、図書館の設置に期待している。</p>



## 事業評価委員会意見

### 1 事業実施の必要性について

本県の現状をみると、蔵書数、利用者数ともに全国水準を著しく下回っており、また、施設の老朽化及び情報化への対応の遅れなどにより、県立図書館が発揮すべき機能が十分に発揮されていないものと考えられ、これらの課題を解決するため、県において新図書館を早急に整備することは必要であると考えます。

### 2 施設の規模、機能等について

- ・他県の図書館が備える多様な機能のすべてを満遍なく追求するのではなく、市町村との役割分担を明確にして、岡山の県立図書館として重視すべき機能を重点的に整備すべきである。
- ・市町村立図書館において、身近な貸し出し業務が行われていることを踏まえれば、閲覧席数などについては、現計画の規模を検討する余地があると考えられるのではないかと（県立図書館は情報拠点機能を重視すべきである）。
- ・情報拠点としての機能を十分に発揮できるよう、岡山情報ハイウェイを活用して高度情報化に対応できる設備の整備を重視すべきである。
- ・駐車場については、交通量の多い市中心部に位置していること等を踏まえ、計画規模の妥当性や利用者負担の必要性について検討の余地があると考えます。
- ・会議室、研究室等の部分については、利用主体や利用内容についてより具体的に検討した上で、規模、機能を整理すべきであり、また、受益者からの応益負担も検討すべきではないかと。
- ・書庫部分の設備・装置等については、初期投資の負担軽減を図るため、必要に応じた段階的整備の手法も検討するべきではないかと。

### 3 財政負担額と効果の比較について

- ・施設設置目的に掲げられた目的指標の達成は必要と考えるが、施設建設費については全体として、なお割高感がある。目的達成のために必要な機能は満たしながら、建設事業費の節減を図る工夫が必要ではないかと。
- ・図書館業務についても、利用者へのサービス水準を維持しながら、可能な分野には、積極的に外部委託の導入や非常勤嘱託等の活用を図り、人件費を含めた管理運営経費の節減を図るべきである。
- ・費用と効果の関係を考える際には、他県の平均的水準を基準とするのではなく、最も効率的な運営がなされている事例を参考にすべきである。

### 施設整備に関する総合意見

本件整備計画については、事業の必要性及び緊急性が認められ、計画内容も概ね適当であると考えられる。ただし、本県の財政状況や利用者負担の公平等の観点から、事業実施の場合には次の点に留意すべきである。

1. 施設建設費、管理運営経費の縮減を図る工夫を行うこと。
2. 施設の管理運営については、できる限り外部委託や非常勤嘱託等の活用を行い、効率的な管理運営を図るべきである。
3. 合理的な範囲での利用者負担の在り方について検討すること。

## 施設整備計画

### 県立図書館建築計画

#### (1) 建設予定地

ア 場所 岡山市丸の内2丁目6-101 (岡山市立丸之内中学校跡地)

イ 敷地面積 約 13,300 m<sup>2</sup>

#### (2) 施設規模

ア 構造 SRC構造 地上4階 地下1階

イ 延床面積 約 19,400 m<sup>2</sup> 図書館施設 (16,100 m<sup>2</sup>)、  
駐車場 (地下 3,300 m<sup>2</sup>) 約 200 台

#### (3) 施設の概要

ア 開架閲覧室 30万冊開架

(6部門制) 一般参考部門、人文科学資料部門 社会科学資料部門、児童資料部門  
科学技術資料部門、岡山県関係資料部門

(7つのコーナー) 新聞、AV、交通文化、外国語、地方出版物、アクセス、検索コーナー

イ 閲覧席 500席、(ブラウジングコーナー等含む)

ウ 利用施設 対面朗読室、メディア編集室・加工室、展示コーナー、会議・集会室、  
研究室、軽食喫茶コーナー、ビデオシアター、駐車場、

エ 収蔵書庫 200万冊 (開館後20年間収蔵可能)

オ 管理部門 事務室等、コンピュータ室、図書選定室、中央監視室、ボランティア室、機械・電気室等

#### (4) 建設スケジュール

11年度	12年度	13年度	14年度～	16年度
基本計画	基本設計	実施設計	建設工事	竣工 開館
文化財確認調査	文化財全面発掘調査			
	地質調査	用地買収		

《参考》 図書緊急整備計画 整備期間 4年間 (平成13年度～平成16年度)

- ・開架図書を30万冊とし、開館時には開館年から以前の6年間の図書18万冊と年数に関係ない一般参考図書及び郷土資料6万冊の24万冊を開架する。
- ・緊急整備図書120,000冊、図書館未設置町村支援図書28,000冊

		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	計
本館用	緊急整備		120,000冊				180,000冊
	通常整備11年～	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
未設置町村支援	緊急整備		28,000冊				80,000冊
	通常整備7年～	32,000	5,000	5,000	5,000	5,000	